

会 議 録

名 称：平成26年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第3回）

開催日時：平成26年8月1日（金）14：30～16：30

開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A

- 次 第 1 北九州市立大学の平成25年度の財務諸表及び剰余金の繰越に係る意見書の決定
- 2 北九州市立大学の平成25年度業務の実績に関する質疑応答
- 3 北九州市立大学の平成25年度業務の実績に関する評価案の検討

[開会]

北九州市立大学の平成25年度の財務諸表及び剰余金の繰越に係る意見書の決定（資料8）

○財務諸表及び剰余金の繰越について、資料8のとおり意見書を決定

北九州市立大学の平成25年度業務の実績に関する質疑応答（資料9）

○大学事務局より、実績報告に関する質問事項について回答

〔質疑応答 内容〕

（委員長）

論文審査あるいは論文審査の要旨の公開は、されていると思いますが、他大学との交換はどの程度されていますか。例えば法学研究科であれば、他大学の大学院との交換は、どのようにされていますでしょうか。

（大学副学長）

確か、本学は行っていないと思います。法学研究科に博士後期課程はないので、社会システム研究科となりますが領域が非常に幅広くあるので、特定の大学との交換ということが行いにくいのです。あくまでWEB上に公開しているということになっております。

（委員長）

幅広いとはいえ、社会システム研究科が、いわゆる社会学とかそういう分野の大学院とは多少は関連があると思うので、そういう博士論文の要旨を交換することによって、他大学のレベルがどのようなものかがはっきり分かるわけですから、そういうのがあると、なおいいのではないのかなと思います。

それから、最後のリスクマネジメントの件なのですが、大切なことで消火訓練もやり、いろいろリスクを発生させないようにとなっているのですけれども、どの程度までリスクを想定しているのですか。恐らく何と何について発生させないというわけであって、本来ならば想定されるある程度のリスクというものがたくさんあって、それに対してどう対応

するかというのが、本来のリスクマネジメントだろうと思います。その辺はいかがなんでしょうか。

(大学副学長)

リスクを完全にゼロにすることはできないと思いますので、リスクが発生することを前提にしたマネジメントをやらなければいけないというのはおっしゃったとおりです。今、学生向けには『安全・安心ハンドブック』というものを配り、リスクがあることの啓発をしています。教職員につきましては、リスクに関するマニュアルを作っており、その中である程度重大なもの、軽微なものに分けて、それぞれの判断をするような形をとっております。

(委員)

リスクマネジメントで今一番厳しいサイバーセキュリティの状況はいかがでしょうか。

(大学副学長)

情報セキュリティ・ポリシーを作成しており、少し前に見直しを行いました。引き続きしっかりとやっていきたいと思います。

(委員長)

法令順守についても同様に、ある程度マニュアル化した規定をきちんと整備し、情報の中から漏れるようなことがないように、その辺りも含めて今後の課題としていただきたいと思います。

〔質疑応答 終了〕

(評価案審議のため、大学関係者退室)

北九州市立大学の平成25年度業務の実績に関する評価案の検討(資料10)

○事務局より、「I教育」分野の項目別評価について説明。

〔委員からの意見等〕

(委員)

中期計画 No.6「地域人材の養成」につきましては、目標として90%というものを掲げていて、その半分しかいかないというのは、いささか計画が悪いのか、遂行状況が悪いのかはあります。おおむね順調とはいかないのではないかなという気がします。いろいろな理由はあると思うのですが、こういう数字を挙げている以上は、せめて80とか70くらい、いくべきではないかという気がいたしました。

それから中期計画 No.8「環境人材の育成」につきましては、北九州の環境首都検定で全体としては半分の合格率ですが、北九州市立大学は全員合格という、1人の不合格者もいなかったのは大変素晴らしいということで、一応、「IV」だとさせていただきます。

(委員)

中期計画 No.14「戦略的な入試広報による優秀な学生の確保」についてですが、昨年度は計画自体に無理があるのではないかと考えております。本当にやるべきことは一般選抜入試の実質倍率 2.8 倍にこだわるのではなく、入試のあり方を根本的に見直し、長期的に入試という問題を根本的に考え直す時期にあると思います。こういった数値目標のたて方でやられるのは、少し大学戦略としてはもったいないような気がします。

(事務局)

次期計画策定時には、そういうところも勘案していきたいと思います。

(委員)

少し不可抗力的なことを一生懸命何とかしようとしているというのは、無理があるのではないかと思います。

(委員長)

入試のあり方自体が問題なので、ここは基本的にどういうふうにかえるかということが重要となってくると思います。ぜひ、学長との意見交換でお願いしたいと思います。

○「I 教育」分野の分野別評価の評価案について説明

〔委員からの意見等〕

(委員)

国立大学が2年間にわたってミッションの再定義ということをやリ、極めて明確に各大学の学部局ごとのミッションというものを定義してきています。公立大学としても、それに対応しないと、いろいろな側面で外から見たときに、社会的使命が何かという話になってくる可能性があります。多分、学部の入試のあり方、大学院教育をどうという視点からやるのかという、要するに研究生養成機関としてのミッションというのは、そんなに大きくないと思うのです。大学院教育のあり方と、学部は入試のあり方、それに関わってくる非常に大事な考え方の整理をする時期ではないだろうかというふうに思いました。

(委員長)

「環境都市の北九州市として、環境人材の育成に力を注いで、優れた人材を世界に、少なくともアジア諸国に送り出すことが」という、こういったような特色を、やはり大学として出すべきではないかということ、少し感じました。だから、場合によっては一緒にこれをしていただければいいのではないかなという気はいたします。

もちろん、環境だけではなくて、やはり、グローバルな人材育成、特に従来から語学力は非常に評価が高いわけです。ところが、最近、あまり見聞きしないのですけれども、以前は、北九州市立大学の英語を卒業した人が、外国の勉強をして留学して帰って来て、結構、他の大学の教授になっているのです。そういう方を、やはりこれからぜひ育てて出す

ということが、北九州市立大学の一つの大きな目標になるのではないかなと思います。
○事務局より、「Ⅱ研究」「Ⅲ社会貢献」「Ⅳ管理運営」分野の項目別評価について説明
〔委員からの意見等〕

（委員長）

研究分野について、大学の自己評価が低すぎると思った項目については、少し評価をあげても良いと思いました。また中期計画 No.44「生涯学習機会の提供」についても、継続するのは難しいけれども、多くを提供し、継続して行っているということについても、評価していいと思いました。

（委員）

非常に海外のことも、研究開発で提携とか、非常に多く、裾野が広がるということは、大変素晴らしいことだと思います。あと、共同研究の中から、できるだけアウトプットを出していくということで、ぜひ、今後もがんばっていただきたいと思います。ただ研究しました、まちづくりもそうですけれども、ただ、まちづくりのいろいろなプロジェクトをつくりましたというのではなくて、その中から市民のいろいろな意識がどういうふうに変わってきたかとか、市民の生活がどういうふうになってきたかとか、あるいは、海外のいろいろな所の、いろいろな研究成果をどういうふう国内に持ち込んできたか、こちらの研究成果を海外に持ちだしたか。そういうようなところも期待をしております。ただ、非常に裾野が広がっているということは、素晴らしいことだと思います。

○「Ⅱ研究」「Ⅲ社会貢献」「Ⅳ管理運営」分野の分野別評価の評価案について説明
〔委員からの意見等〕

（委員）

研究のところで、今後の期待としては、中期計画 No.33「新エネルギー・リサイクル技術等環境に関する研究」等で挙げてあるような技術の話と、中期計画 No.36「地域に関する研究」などの都市政策の話、こういったものがばらばらです。これは、本来ならば、北九州市立大学を北九州市の問題として捉えるならば、これは一緒に扱える話です。だから、環境都市の政策、その政策を実現するためにどう技術を使うか、あるいは、その技術を使って、外に都市を売り出していくための都市戦略、そのための政策というような、その循環をうまく作り出すような研究の流れができるというのが一つの理想だと思うのですが、そういうのが、これは個別にやっちゃっているんで、ある意味で自ら壁をつくっちゃっているような気がします。そういうところを、うまく今後は、壁を取っ払って研究をしていかれるのがいいのではないかなと思います。

それから、政策のところは海外とやられていますけれども、特に仁川という急激な発展をしている場所とやるだけでなく北九州もここまではやろうというのが出ているのかというのが一番知りたいところです。いろいろ頂いた資料の中からは、あまりそれが見えてき

ませんでした。今後の研究の方向性というところで、学長との意見交換とかでやらせていただければと思います。

(委員)

社会貢献でも研究でも、すごく努力されているというのがとてもよく分かりましたが、やはり単発事業で終わらない、継続していく方法論というのも含めて検討していただき、研究の話も含めてその先をどう活かしていくかということも含め、考えていただきたいと思います。

「まなびとESDステーション」とかでも、拡大して評価されて、どこの評価においても、とても委員の皆様も高く評価しているものを、助成がなくなっても続けられるかということ、やはり合わせてイメージしておくということが、とても大事なような気がします。うまくいっているからこそ、継続できる方法も一緒に考えていただければいいかなと思いました。

(委員)

それは、重要なポイントだと思います。国立とは違う公立の良さで、市民がこのアクティビティを非常に強く支持してくれているという市民のサポートがあれば、市は続けてやってくれと言わざるを得ないわけです。

ところが、そういうふうに市民の声をとるフィードバックの仕組みがあまりないような感じがして、北九州市立大学があることによって、北九州市民はやはりうれしいんだというような情報が上がってくる仕掛けというのがあれば、優先度が上がってくるのだと思います。

(委員長)

最後の管理運営についてですが、大学独自の財務運営が必要になるため、他大学では外部から本物の金融の専門家を入れたりしています。そういう方に運用を任せるとかすることが、大学としての財務健全化を図る上で、必要なのではないかと思います。

また、科研費の取得等についても、専門的な方がいます。そういう方を招くことでも更に科研費の取得が進むように思います。

(委員)

市の派遣職員をプロパーに改めていくという方針をやられていますが、プロパーの人を、もちろんジェネラリストも必要なのですがスペシャリストを積極的に入れるということが大事です。国の状況等の情報収集を行うなど、そういった早めの対応が可能になるのです。

(委員長)

いち早く、もう発表される前から情報をつかんで計画を練って、迅速に行うというのが非常に大事なような気がします。

○事務局より全体評価について説明

〔委員からの意見等〕

(委員)

教育のところで、「入試広報戦略などにより大学の魅力をPRし」ということについて、本当の意味での根本的な入試改革ということにまで、少し踏み込んでもらいたいという気持ちも入れてもらいたいと思います。やはり、入試自身をもう1回見直して、もちろん、来年度の話は広報戦略など一生懸命やっていただかないといけないのですが、本当に欲しい学生をどうやって取るかということ、もう一度原点に戻って考えていただきたいと思います。

それから、研究の最後のところで、「新製品・新商品の創出を期待する」だけではなくて、やはり文系が多いので、新しい都市政策を生み出してほしいとか、そういったことも少し入れていただきたいと思います。

(委員)

現在の中期計画の中で、各年度の計画が挙げられていますが、評価というのはいつごろされるのでしょうか。通常ですと、年度の終わる1カ月か2カ月前に、その年度が大体うまくいきそうかどうかというのを評価して、次年度の計画につなげていくのではないかと思うのですが、少しタイミングが遅いのではないかと思うのです。

ですから、今、ちゃんともう1回見直すとかご意見がありましたけれども、多分、今年度の計画は終わってしまっているんで、多分、来年度の計画に反映するようになってしまっているのではないかと思うのです。

(事務局)

大学内での様々な会議での承認等が必要になりますので、大学内部で準備は年度の終わりがけに進めていると思います。事務局には6月頃に提出があります。大学のほうでは、26年度の計画を前の年度に作るということで、年度の終わりごろに評価と計画の準備をおそらく同時並行していると思います。

〔審議終了〕

○最終的な評価案については、委員長一任とし、審議終了。

〔事務局より次回の委員会のスケジュール等について説明し、閉会〕